

校名：新潟大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒940-8530 長岡市学校町 1-1-1 電話番号：0258-32-4192

記載日： 28年 5月 26日 記載者：伊藤 純子 記載者役職：副園長

【校風、おおまかな特色について】

教育の基本姿勢

- ◎ 子供の思いを大切にし、自発的な活動を大切にします。
- ◎ 教えて学ぶよりも、様々な経験を通して自分で学びとっていくことを重視します。
- ◎ 一人一人の変容や成長の過程を大事にし、それぞれの違いをしっかりと受け止めます。
- ◎ 子供の心に寄り添い、子供の心の向いている方向を共に見つめようと努めます。
- ◎ 附属小学校・中学校との連携を深め、幼・小・中12年間を見据えた教育を進めます。現在、文部科学省の研究開発指定を受け、「社会的な知性を培う」を研究主題として幼小中一貫教育研究を進めてきています。



「社会的な知性」を培うための幼小中一貫カリキュラムの構造

三つの資質・能力

幼小中12年間ではぐくむ資質・能力

現代社会の様々な問題に主体的にかかわりながら、従来の枠組みにとらわれず、新たな発想で他者と手を携えて解決していく問題解決能力。

自己を推進すること
よりよい自分をつくること。

相互に交流すること
よりよい人間関係をつくること。

新たに開発すること
対象との新たなかかわりをつくること。

五つのステージ

学校段階間の接続を目指す新しい枠組み
自己肯定感を高める
合同活動・学習

認知や社会性等の発達から構成した区分。年齢や学年をまたいで設定し、異学年間での合同学習や、異校種間での合同活動・学習を実施。

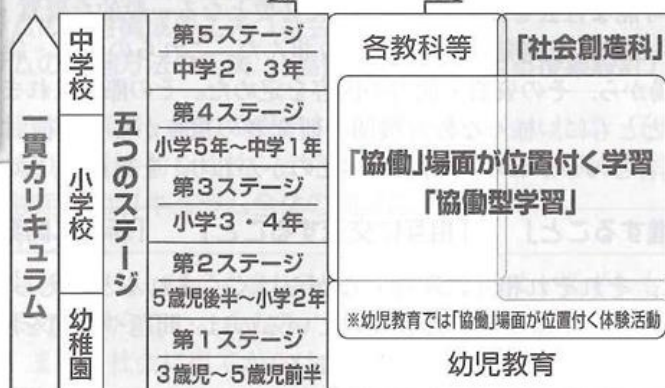
「社会創造科」

社会に開かれた教育課程の中心となる教科

身の回りや地域の人と深くかかわりながら、「持続可能な社会の創造」の視点に立って、実践的かつ探究的に学習・活動することを通して、三つの資質・能力をはぐくむとともに、身の回りや地域に対する認識を深め、これからの社会を創り上げる態度を培う教科。

社会的な知性

—持続可能な社会を創り上げる資質・能力—
(自己を推進すること、相互に交流すること、新たに開発すること)



「協働型学習」

主体的・対話的な
学びの姿を目指す
アクティブ・ラーニング

互いに問題の解決や願いの具現のために取り組む過程を共有する中で、資質・能力を働かせながら、互恵的にかかわっている場面が位置付く学習。

【当園の卒業生の活躍状況について】

卒園児はほぼ全員附属小学校へ進学し、その後、附属中学校へ進学する（幼小中は渡り廊下でもつながっています）。国内外において、又地域において、様々な分野でリーダーとして活躍する多くの人材を輩出している。

【当園勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について】

県教育委員会が、当園勤務経験者について把握している。当園勤務後は、県や市町村の幼稚園教諭及び小学校教諭（優秀教員受賞者含む）、管理職として活躍している。

【魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて】

○ 三つの資質・能力のはぐくみを目指す保育計画（P3,4 参照）

- 三つの資質・能力
- ・身の回りの環境に興味・関心をもち、夢中になって遊ぶこと
 - ・友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと
 - ・思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと

○ 全国規模の研究協議会の開催による地域を越えた普及・啓発

研究協議会には、他の校種や国公立市立幼稚園・保育園・子ども園、幼稚園教諭免許・保育士資格が取得可能な大学・専門学校の参加を促し、広く地域に開かれた研究を推進している。

○ 大学教員を活用した園内研修やミニ講座の充実

- ・園内研修やミニ講座において、大学・学部教員を講師として依頼し、研修を深めている。
- ・大学・学部教員が参画している「運営指導委員会」や「PTA講演会」「園だより」等を充実させている。

【地域における当園の存在について】

「地域のモデル園」

- ・県新採用教職員研修の会場園として毎年保育を公開し新採用教職員の研修をサポートしている。
- ・幼児期の遊びの質を高める援助について考え合う「ミニ講座」を開催し、保育者同士の学び合いを活性化する取組を行っている。

【附属学校の存在意義、当園の存在意義について】

○ 未来を見据えた幼小中連携の研究実践

明治34年新潟県長岡女子師範学校附属幼稚園として開園。全国的にも、同一敷地内で、しかも廊下でつながっている恵まれた環境である。幼・小・中12か年の学びを見通した中で、未来を見据えた幼小連携の研究実践を積み重ね続けている。




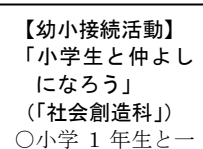



○ 幼児教育のキャリア教育・グローバル化

右は当園脇の紅梅の木である。アメリカと日本の架け橋となった杉本鍼子ゆかりの木で、市民に親しまれている。保護者とともに、その生き方に触れさせ幼児教育におけるキャリア教育の推進している。また、北京師範大学附属南奥実験校附属幼稚園との訪問交流を実施している。

以上の取組における存在意義は大きい。



三つの資質・能力のはぐくみを目指す保育計画（例：5歳児 2学期・3学期）

| 時期 主な 園行事 | 表出が期待される三つの資質・能力 | | | 「遊び」の配列 |
|----------------------------------|--|---|--|--|
| | 身の回りの環境 に興味・関心をも ち、夢中になって 遊ぶこと | 友達やその遊び のよさに目を向 け、思いを伝え ながら、一緒に 遊ぶこと | 思いを膨らませ、 自分なりに工夫 して遊ぶこと | |
| 8月 2学期 始業式 | IV期（年中4歳児2月～年長5歳児10月） | | | <p>「友達とちょっと 楽しく」(素材の 特性を生かして)</p> <p>○友達と思いや考 えを伝え合いな がら、好奇心や 探究心を持ち、 工夫して遊ぶ。</p>  <p>植物の汁や泡で 料理作り</p>  <p>秋の虫捕り</p>  <p>秋の虫の飼育</p>  <p>赤土山での 水・泥遊び</p> <p>【幼小接続活動】 「小学生と仲よし になろう」 （「社会創造科」）</p> <p>○小学1年生と一 緒に遊ぶ中で、 異年齢の仲間と のかかわりを楽 しむ。</p>  <p>どんぐりゴマ製作</p>  <p>ヤッホー広場探検</p>  <p>氷遊び</p> <p>「冬行事を楽しもう」(餅つき、クリスマス)</p> <p>○季節の行事を通して、親子の触れ合いや 季節の移り変わりを楽しむ。</p>  <p>親子餅つき会</p>  <p>プレゼント渡し（終業）</p> |
| 9月 | 「ひと・もの・こ と」への興味を広 げ、そのよさや特 性を感じながら、 繰り返ししかかわ る。 | 友達とかかわる 中で、自分の思い を伝えながら、一 緒に遊ぶ楽しさ を感じる。 | 遊びをより楽し くしようという 思いをもち、自分 なりに試行錯誤 する。 | |
| 三校 園 合 同 運 動 会 | <p>「 」 ○表出した資質・能力</p>  <p>○「協働」場面の様相</p> <p>○要因となった環境構成と教師の援助</p> | | | |
| 秋の交 通安 全 教 室 | | | | |
| 避 難 訓 練 | | | | |
| 10月 | | | | |
| 探 検 遠 足 | | | | |
| 11月 | V期（年長5歳児11月～3月） | | | |
| 焼 き い も の 会 | 「ひと・もの・こ と」への願いをも ち、そのよさや特 性を感じながら、 見直しをもって 繰り返ししかかわ ること。 | 友達と共通の願 いを持ち、考えを 伝えながら、一緒 に遊ぶ楽しさを 感じる。 | 遊びをより楽し くしようと遊び への思いを膨ら ませ、自分なりに 試行錯誤すること。 | |
| 作 品 展 | | | | |
| 12月 避 難 訓 練 | | | | |
| 餅 つ き の 会 | | | | |
| 2学期 終 業 式 | | | | |

「遊び」の配列

「赤勝て 白勝て
運動会」

○年少、年中児の
リーダーとして
行動し、力一杯
体を動かす気持
ちよさを味わ



「ほら、虫の声が
聞こえるよ」

○友達と一緒に、
虫取りや飼育を
楽しむことを通
して、季節の変
化を味わいなが
ら生き物の命の
大切さを感じる。



秋の虫捕り



秋の虫の飼育

「力を合わせてゴ
ールを目指そう」
（探検遠足）

○秋の自然を味わ
うとともに、年
長児として仲間
と協力する大切
さを感じる。



園内探検



探検遠足

「作って遊んで
描いてみよう
-季節の宝物-」

○秋・冬の素材か
ら感じたことや
考えたことを、
様々な方法で表
現する。



どんぐりゴマ製作



ヤッホー広場探検



氷遊び

「収穫を喜び合お
う」

○育てた野菜や果
物を収穫する経
験を通して、食の
大切さや栽培の
楽しさに触れる。



いも掘り



焼いも会

「作って遊んで
仲よしに」

○小学校の行事に
参加し交流を深
める



仲よしフェスティバル

| | | 表出が期待される三つの資質・能力 | | | | | |
|------------------|--------------|--|---------------------------------------|--|--|--|---|
| 時期 | 主な園行事 | 身の回りの環境に興味・関心を持ち、夢中になって遊ぶこと | 友達やその遊びのよさに目を向け、思いを伝えながら、一緒に遊ぶこと | 思いを膨らませ、自分なりに工夫して遊ぶこと | 「遊び」の配列 | | |
| 1月 3学期 始業式 | お正月 お楽しみ会 | V期（年長5歳児11月～3月） | | | 【幼小接続活動】 「小学生とちょっと仲よしに」 （「社会創造科」） ○小学1年生と一緒に遊ぶ中で、異年齢の仲間とのかかわりを楽しむ。 | 「冬の遊びを工夫して楽しもう」 （雪と氷遊び） ○雪（氷）を使って遊ぶ中で、その特性を生かすと、遊びがもっと楽しくなることに気付く。 | 「冬の行事を楽しもう」 （お正月遊び、お楽しみ会） ○お正月の経験をもとに、自分で遊びを作ったり、みんなで昔の遊びを楽しんだりする。 |
| お正月 お楽しみ会 | | 「ひと・もの・こと」への願いをもち、そのよさや特性を感じながら、見通しをもって繰り返しかかわること。 | 友達と共通の願いをもち、考えを伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じることに。 | 遊びをより楽しくしようと遊びへの思いを膨らませ、自分なりに試行錯誤すること。 | | | |
| 遊難訓練 | そり遠足 | 「 」 ○表出した資質・能力 | | |  「みんなのスノーヤッホーランドを作ろう」 |  かき氷作り |  ジャンボかるた大会 |
| そり遠足 | | ○「協働」場面の様相 ○要因となった環境構成と教師の援助 | | |  「雪で遊んでもっと仲よし」 |  雪の花作り | 【幼小合同活動】 「行くぞ、みんなでそり遠足」 ○そり遊びを通して友達と体を動かす遊びの楽しさを味わうとともに、健康・安全な生活に必要な態度を身につける。 ○小学生とそり遊びや雪遊びを通してかかわり、一緒に遊びを楽しむ。 |
| 2月 豆まきの会 | 新入園児 一日入園 | | | |  「ありがとう おめでとう もり組さん 6年生」 |  かまくら作り | ○小学生とそり遊びや雪遊びを通してかかわり、一緒に遊びを楽しむ。  合同そり遊び |
| 新入園児 一日入園 | | | | | | 「冬も元気に過ごそう」 ○体を動かしたり、うがい等をして、元気に過ごす意欲を高める。  ドッジボール | 「ようこそ小さいお友達」 （一日入園）  お店屋さんごっこ |
| 3月 | ありがとうの会 | | | | 「春がそこまで」 ○植物の成長や日の光の強さ、季節の行事などに関心をもちながら、春の訪れを感じる。  一人一鉢（水や | | |
| ありがとうの会 | | | | |  卒園式練習 | 「もうすぐ1年生 忘れないよ 幼稚園」 ○園生活を振り返り、今までお世話になった方々と一緒に仲良くしてきた年少・年中さんに感謝の気持ちをもつとともに、小学校入学への希望や心構えをもつ。 ○自分の得意なことなど、自分の成長に自信をもつとともに、仲間のよさにも目を向け、認め合う気持ちをもつ。  卒園式練習 | |
| 卒園式 | 3学期 終業式 | | | | | | |
| 3学期 終業式 | | | | | | | |